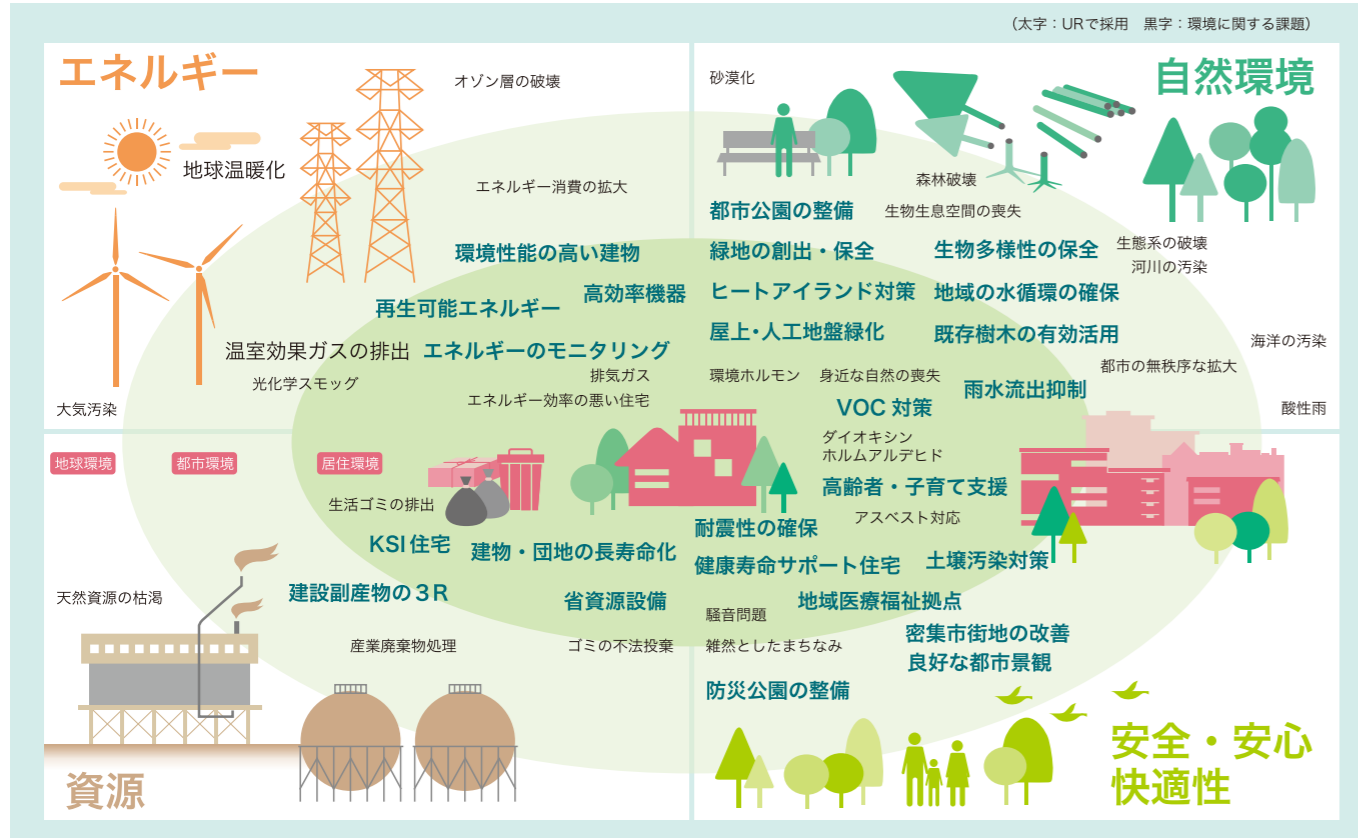


環境への取り組み

URは、まちや住まいづくりを進めていくに当たり、環境について配慮すべき視点を取りまとめ、「環境配慮方針」として宣言しました。この方針に従って、環境に配慮した取り組みをさまざまな業務フィールドで進めていきます。



URは、あらゆる分野において、幅広い関係者とのパートナーシップを充実・強化して、持続可能でレジリエンスの高い循環共生型のまちづくりをめざしています。

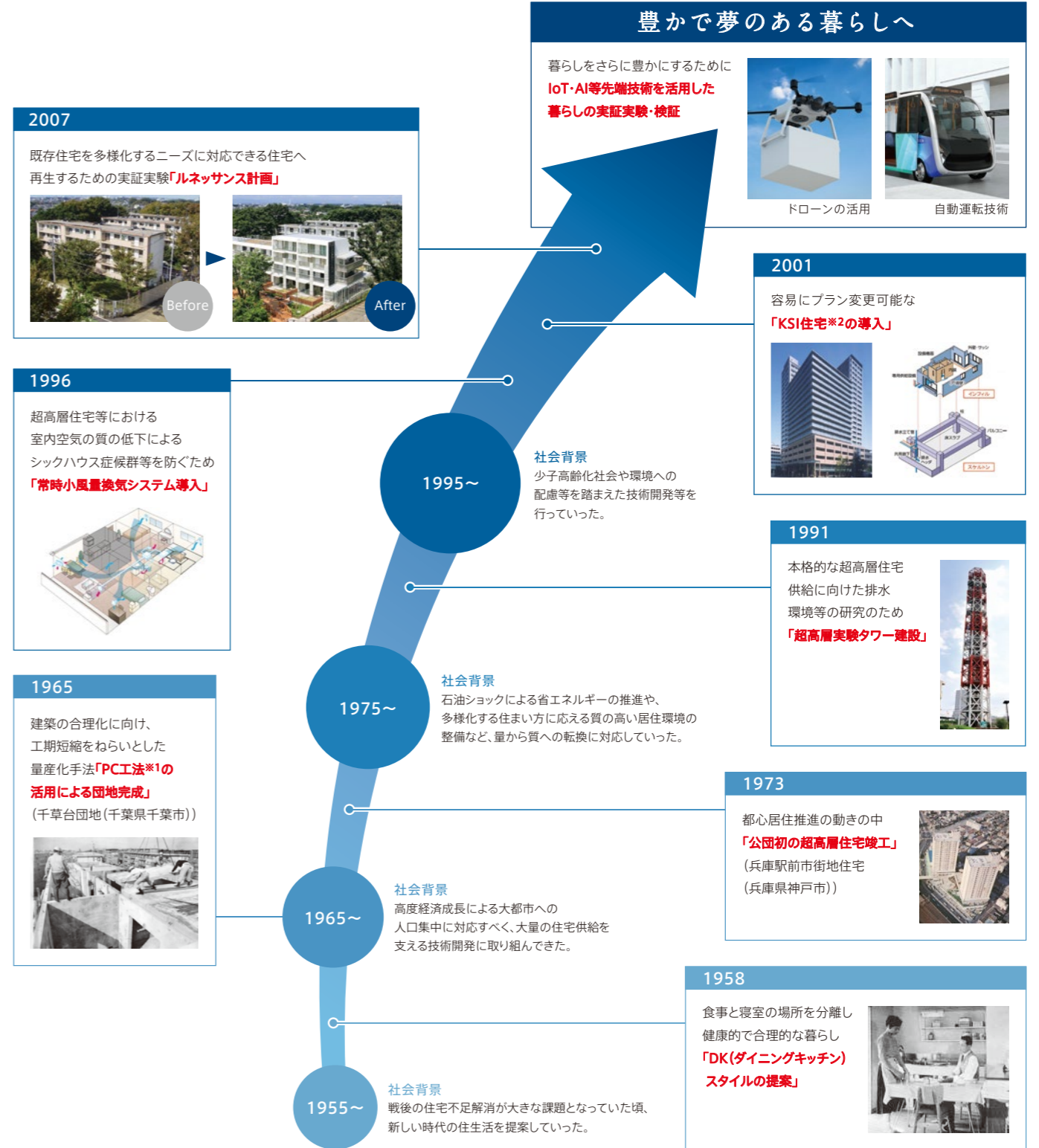


住環境でのURの取り組み事例(省エネルギー設備・グリーンインフラの推進)



技術開発等の変遷

1955年の日本住宅公団設立以来、60年を超える長きにわたり、住宅不足の解消・高度経済成長・少子高齢化・環境への配慮等、時代のニーズに応えるために技術の開発・活用等を行ってきました。今後さらに、IoTやAI等の先端技術を活用した豊かで夢のある暮らしの実現に向け、技術の開発・活用等を進めていきます。



2007
既存住宅を多様化するニーズに対応できる住宅へ再生するための実証実験「ルネサンス計画」

1996
超高層住宅等における室内空気質の低下によるシックハウス症候群等を防ぐため「常時小風量換気システム導入」

1965
建築の合理化に向け、工期短縮をねらいとした量産化手法「PC工法※1の活用による団地完成」(千草台団地(千葉県千葉市))

1995~ 社会背景 少子高齢化社会や環境への配慮等を踏まえた技術開発等を行っていった。

1975~ 社会背景 石油ショックによる省エネルギーの推進や、多様化する住まい方に応える質の高い居住環境の整備など、量から質への転換に対応していった。

1965~ 社会背景 高度経済成長による大都市への人口集中に対応すべく、大量の住宅供給を支える技術開発に取り組んできた。

1955~ 社会背景 戦後の住宅不足解消が大きな課題となっていた頃、新しい時代の住生活を提案していった。

豊かで夢のある暮らしへ

暮らしをさらに豊かにするためにIoT・AI等先端技術を活用した暮らしの実証実験・検証

ドローンの活用 自動運転技術

2001
容易にプラン変更可能な「KSI住宅※2の導入」

1991
本格的な超高層住宅供給に向けた排水環境等の研究のため「超高層実験タワー建設」

1973
都心居住推進の動きの中「公団初の超高層住宅竣工」(兵庫駅前市街地住宅(兵庫県神戸市))

1958
食事と寝室の場所を分離し健康的で合理的な暮らし「DK(ダイニングキッチン)スタイルの提案」

※1 PC工法…建物の基本となる部材をあらかじめ工場で作製した後、現場へ持ち込み組み立てる工業化工法。
 ※2 KSI住宅…長期耐久性を有するスケルトン部分(建物の骨組みである躯体や共用部分)と、変化や更新への対応が可能なインフィル部分(住宅の内装や設備)を、明確に分けた住宅。各戸単位の改修がしやすく、将来の市場ニーズ等に迅速に対応できるプラン変更や用途変更を可能にする。